

# 「白門」に学ぶ

## 外国人留学生

フィリピン

ラヴィニヤ・アビゲールさん

|| 文学部

「日本に来てよかった、いっぱい友達ができたから」と無邪気な笑顔で話すのは、フィリピンからの留学生で、文学部で学ぶラヴィニヤ・アビゲールさん。日本に来て9ヶ月が経ち、日本での生活もすっかり慣れた様子だ。

### 母国で2年、日本語を勉強

アビゲールさん（愛称…アビさん）は、母国の大学で2年間日本語を学ぶうちに、日本のヴィジュアル系バンドに興味を持ち、日本に留学することを決めた。そのバンドの影響で、自身でも2年前からベースギターの特訓も始めたほどの熱の入れようだ。

交換留学生のサポートをするサークル「SPUTNIK（スプートニク）」の活動にも参加し、

昨年の白門祭では仲間と一緒にチヂミを販売するなど大学生活を楽しんでいる。そうした充実した大学生活で自然な日本語が身についたのか、アビさんの日本語はとてなめらかである。

### 敬語を使うのが「大変」

だがアビさんは、「日本語を勉強するのは難しい」と話す。読み方が似ている漢字が多いことや、敬語を使いこなすことが「『大変だ』と感じた」という。

日本への印象を聞いたところ、「人々が冷たい」という答えが返ってきた。ある日、自転車置き場で自転車をドミ

ノ倒しのように倒してしまった人がいても、誰も手伝わなかったのをみた時、そう感じたそうだ。「フィリピンだとみんな手伝う」とアビさん。一方で「日本のいいところは？」と聞くと、「安全なところ」と即座に答えてくれた。「学校で財布を置き忘れてしまった時でも99%、元の場所そのままにある」と嬉しそう。「でも、フィリピンだと99%無くなっている」と今度は顔を曇らせた。



笑顔で答えるアビゲールさん

## バイトで早口の注文に戸惑う

「それと、日本の店の店員さんは愛想がよくて優しいです」という。アビさんは、週に3回、居酒屋でアルバイトをしていて、そう感じるそうだ。

アルバイトでは、接客の仕事をしており、お客さんに早口で注文されてしまうと、「言葉がわか

らず苦労する」という。だが外国人留学生だとわかると、「頑張ってください」「すごいですね」と声をかけられることもあり、「そんな時は嬉しい」と笑みを交えて話してくれた。

## 日本語能力試験2級に挑戦

日本語の勉強にも励んでいる。7月には日本語



日本語能力試験の勉強に奮闘するアビゲールさん

能力試験2級を受ける。漢字や長文読解・文法・

聞き取りなどが出題される2級の検定対策用の問

題プリントを見せてもらった。長文の中に空白が

あり、当てはまる語尾を次の選択肢『1. ～そう

2. ～そうだ。 3. そうです』から選ぶとい

う問題があったが、日本語の細かい言葉の使い方

や知識がなければ解けない難問だ。

「フィリピンでは3年かかる勉強でも半年で身

につけることができる」と実感するアビさんは、

合格を目指して奮闘中だ。

## 将来は学校の先生に!?

「将来は先生になるのもいいと思う」という。

日本の友達に英語を教えるときに、教えることの

楽しさを覚えたのがきっかけだ。ほかにもバンド

マンや役者といった職業にも憧れている。「幸せ

になれるのならそれでいい」とキラキラした目で

そう話すアビさんの夢は広がるばかりだ。

フィリピンに帰国するまで、残り3か月。そ

れまでに、「友達がいる京都や福岡に旅行に行く。

日本の夏祭りや浴衣を着たり、花火を見たりする」

ことを楽しみにしている。

(学生記者 山岸怜奈||総合政策学部4年)